

事務事業計画書兼評価表(A表)

1 事務事業に関する基本情報				平成	29	年度
事業番号	837	事業名	若桜鉄道対策費			
担当課	企画課	担当係	若桜鉄道運行対策室			
総合計画に最も関連ある施策	施策	3	安心安全な暮らしづくり	連絡先	0858-76-0212	
	施策体系	2	道路・交通環境の充実	事業区分	□新規 ■継続	
	主な事業	若桜鉄道対策事業				
予算区分	款	2	総務費	事業実施主体	■八頭町 □その他	
	項	1	総務管理費			
	目	21	若桜鉄道対策費	計画期間	開始	平成21年度
	事業	837	若桜鉄道対策費		終了	—

2 事務事業の概要

事業の対象	誰(何)に対してこの事業を行うのか記載 町民					
事業の目的	誰(何)をどうするためにこの事業を行うのか記載 若桜鉄道利用客の利便性向上及び安全安定した鉄道運行の維持。また、若桜鉄道を活用した観光振興を図る。					
事業の内容	事業の規模や業務量などを具体的に記載 地域公共交通確保維持改善事業(国庫補助事業)による軌道設備の更新、鉄道施設保守管理業務等による軌道設備の維持管理や駅舎等管理業務。観光列車への改修。					
事業の手段	どうする方法、手順で事業を進めるのか、具体的に記載 軌道設備の更新や軌道設備の維持管理、車輛の改修に関しては、若桜鉄道(株)に業務委託を行い実施する。駅舎管理等は町で直接管理する。					
事業の成果到達点	どんな成果を得たいのか、または、何がどうなれば達成か、具体的に記載 安全で安定した鉄道輸送の確保と公共交通網の整備を行うことにより、町民の利便性の向上が図られる。若桜鉄道(株)の黒字化を目指す。					
根拠法令等	1	1. 法令(義務) 2. 法令(任意) 3. 条例 4. 規則・要綱等 5. なし			法令等名→	鉄道事業法

3 活動指標、成果指標

活動指標		単位	事業の手段を図るものさし			
	A	人	輸送人員			
	B					
	C					
成果指標		単位	事業の成果、到達点を図るものさし			
	E	千円	若桜鉄道(株)経営収支			
	F					
	G					
	H					

4 コスト

区分		単位	26年度	27年度	28年度		29年度		30年度
			実績	実績	目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	A	人	346,658	325,191	290,000	310,971	285,000	325,597	340,000
	B								
	C								
	D								
成果指標	E	千円	△ 33,430	33,267	100	9,349	100	12,805	1,000
	F								
	G								
	H								
トータルコスト		千円	118,390	117,122	162,476	149,018	140,883	140,326	169,141
担当職員数		人	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.00	1.0
職員人件費		千円	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
事業費		千円	110,390	109,122	154,476	141,018	132,883	132,326	161,141
事業費財源内訳	国庫支出金(交付金・補助金)	千円	25,710	26,645	31,423	30,355	18,982	16,782	47,240
	県支出金(交付金・補助金)	千円	18,852	18,712	19,014	16,152	17,016	16,783	17,016
	地方債(借入金)	千円	33,900	31,900	55,700	53,400	65,300	66,700	65,300
	事業収入(使用料・参加費等)	千円	29,321	29,496	43,286	39,850	29,648	29,690	29,648
一般財源(単町費)		千円	2,607	2,369	5,053	1,261	1,937	2,371	1,937

事務事業計画書兼評価表(B表)

5 実施活動内容・成果(到達点)

平成 29 年度

実施活動内容・成果(到達点)	実施活動内容(具体的に) ・公有民営方式で八頭町・若桜町が軌道・車両の保守・維持管理及び設備改良等を実施し、年間を通して安全な旅客輸送を確保した。 ・老朽化が著しく、大幅な改修が必要となっていた昭和62年購入の車両3両のうち1両について、車両改修に併せて観光車両「昭和」へ改装するとともに、「昭和」関連のグッズ製作やツアー商品を造成し、「昭和」を活用した観光誘客に取り組んだ。 ・若桜鉄道を利用して通学する高校生の通学定期購入金額の1/2を助成し、通学旅客並びに運輸収入の確保に努めた。
	成果(具体的に) ・平成28年4月から車両を八頭・若桜の両町有化したことや、高校生の通学定期半額助成を実施したことも影響し、若桜鉄道(株)の平成29年度決算は前年に続く黒字決算となった。また、観光列車「昭和」がデビューした3月の乗車人員は前年同月比で787人増加し、年間輸送人員が32.5万人と増員増収となるなど、「昭和」による効果も徐々に見え始めている。

6 事務事業の評価

評価項目	評価点	点数	チェックポイント	判断理由・評価コメント(具体的に記入のこと)
必要性 (町民ニーズ)	20	20	①必要性が高い	通学・通勤や高齢者など交通弱者の生活交通の確保を図るため、大量輸送のできる公共交通としての鉄道の確保は必要である。
		13	②どちらかと言えば必要性がある	
		7	③必要性が低い	
		0	④必要性がない	
妥当性 (町が行わなければならないか)	13	20	①町が行わないといけない	鉄道事業再構築実施計画を策定し、ホン町が第三種鉄道事業者として鉄道の安全輸送を確保する必要があるため、妥当性は高い。
		13	②どちらかと言えば町が実施	
		7	③妥当性が低い	
		0	④妥当性がない	
効率性 (コスト削減の余地は無いか)	13	20	①効率的である	鉄道施設の整備では施工業者が限定されるため、比較的成本が割高となる傾向はあるが、委託先の若桜鉄道(株)においては、修繕の発注に際して指名競争を実施しており、価格の適正性を確保している。
		13	②どちらかと言えば効率的である	
		7	③どちらかと言えば非効率的である	
		0	④非効率的である	
緊急性 (他事業に優先し実施する必要があるか)	13	20	①緊急性が高い	地域住民の生活交通を確保するとともに、観光振興による地域活性化を図るためにも、早急な対応が必要である。
		13	②比較的緊急性がある	
		7	③緊急性が低い	
		0	④緊急性がない	
成果 (目的の達成状況)	20	20	①成果が上がっている	鉄道の安全輸送と若桜鉄道の経営改善が図られたが、今後も人口減少が進行し、若桜鉄道の乗車人員及び旅客収入が減少することも十分に予測されるため、収支状況には引き続き注視が必要である。
		13	②どちらかと言えば上がっている	
		7	③どちらかと言えば上がっていない	
		0	④成果が上がっていない	

一次評価	事業の方向性	点数	評価点合計	判定に至った理由
2	1、拡充する	80点以上	79	様々な取組により鉄道の安全輸送と若桜鉄道の経営改善を図ることができた。若桜鉄道の乗車人員及び旅客収入においては、観光列車「昭和」の導入もあり一定の成果が得られてはいるものの、引き続き安定した収入と輸送人員を確保するため、観光需要の動向を注視しつつ、ツアー商品の造成、グッズ開発や新車両の年次的導入を進めるとともに、一層の若桜鉄道の営業努力、また、沿線団体との協力体制の構築を通じた機運醸成等を図る必要がある。
	2、現状維持	60～79点		
	3、改善・効率化し継続	50～59点		
	4、見直しの上縮小する	40～49点		
	5、終期設定し終了	30～39点		
	6、休止	20～29点		
	7、廃止	19点以下		

二次評価	事業の方向性	判定説明・意見
2	1、拡充する	大量輸送や定時運行が可能な若桜鉄道は、地域において重要な公共交通機関であるとともに、近年では地域資源や観光資源としての価値も見い出され、町外から人を呼び込むツールとしても重要性が増しているところである。しかしながら、鉄道の運行や施設管理には莫大な費用が掛かり、国・県の補助金や過疎対策事業債が活用できるとは言え、町の実質的な負担も少なくはなく、また、人口減少や経済的負担感の大きさ等による通勤・通学利用客の減少等により営業収益は低迷している状況にある。若桜鉄道(株)の経営改善を図るため、平成28年度にはこれまで若桜鉄道(株)が保有していた車両(4台)を八頭・若桜両町の所有としたところであり、平成28年度から開始した通学定期助成制度による運賃収入の確保も相まって、若桜鉄道(株)の営業収益は改善された。また、観光事業において、各種イベントの実施や広域観光ルート化や周辺観光施設とのマッチングなどの事業を展開するとともに、平成29年度中途からは観光列車「昭和」の導入による新たなツアー事業も開始され、平成28年度に引き続き経営収支は上向きとなった。今後、車両計3台の観光列車化を年次的に実施し、観光機能の更なる強化による収入源の確保が期待されることであるが、より多くの利用者の誘致につなげるとともに、安定的で継続的な事業展開となるよう、若桜鉄道(株)に対する営業努力・経営改善の要請を含め、効率的・効果的な事業実施に努められたい。
	2、現状維持	
	3、改善・効率化し継続	
	4、見直しの上縮小する	
	5、終期設定し終了	
	6、休止	
	7、廃止	

7 課題及び今後の方向性

課題	事業活動に当たり、一番の問題と捉えていること。重点的に手当てする事柄、改善点、工夫したい箇所 車両の町有化や高校生の通学定期半額助成等の効果により、若桜鉄道の収支は回復の兆しがあるものの、生活交通としての利用者は依然として減少傾向にあることから、新たな需要を創出し、輸送人員と運賃収入を確保していくための施策展開が必要である。
今後の方向性	上記課題を解決していくため、次年度どんな活動を展開していくのか ・観光列車の2次車導入とツアー造成による観光客誘致の更なる推進を行うとともに、観光列車の運行演出の磨き上げのため駅舎をレトロ調に改修し、観光機能の強化を一層進めることとしている。また、若桜鉄道の更なる利便性の向上に向けた取組を推進するため、八東駅への行き違い施設の整備を行う。